

ウェイマス報告（2009）

2009年は8月10日から18日（風、潮調査）、8月13日から9月20日の長期にわたり、NT選手の現地練習、大会参加の遠征、を実施した。（詳細は報告書参照のこと）

11月4日、東大にて早稲田先生、東大大学院メンバー（清松、伊藤、西田、小平）、気象アドバイザーの岡本、セーリングチームから中村健次、斉藤愛子が集まり、報告と意見交換を行った。

報告とディスカッション

- ・固定ブイの流速計と漂流棒データの比較を行い、棒データはおおよその流れの雰囲気をつかむことはできても、データ検証には信頼性が足りない（清松）
- ・漂流棒データと市販データの比較（清松）
- ・漂流棒は波の影響を受けるか計算したところ、波が大きいと若干影響ある程度（伊藤）
- ・波浪ブイのデータがウェブサイトで見られる（早稲田）
- ・遠征したセーラーからのコメント、セーリングチームが必要な情報（中村、斉藤）
- ・気象モデルでの取り組み、ウェイマスの風を再現できるか？（西田）
- ・風の傾向と地形の影響（岡本）

今後の取り組み

- ・潮シュミレーションモデルのデータ検証に、ADCP（測定機械）が使えないか。
- ・データチェックは2010年、11年の遠征現場で実施したい。
- ・風モデルについては岡本、西田で、更に考えてみる。
- ・漂流棒の測定データとシュミレーションの誤差をどうとるか、中村、斉藤で考える。
- ・漂流棒の長さ、現状の1mか、長い2mか。
- ・測定方法や機械など、情報収集し、早稲田先生中心に測定地点、タイミング、など、方針を決めていく。
- ・2010年も測定を計画する。
- ・過去の風データ、こよみまわりなどは岡本中心にまとめていく。
- ・イギリスでの器材レンタル、気象データ入手先などは斉藤が調べる。
- ・2009年の遠征選手から聞いた話の要点をまとめた（添付PDF）。五輪本番は満月が入り、潮が速い時期にあたるし、7月（夏）と8月（初秋）の季節は風の変化も多いと予想される。2010年、11年と遠征する選手からは、現場での情報を効率よく集め、チームとしてまとめていきたい。それらの総合した情報が五輪本番で代表選手へのサポートとなることを目標とする。